

# せせらぎが 流れるまち松本

—Matsumoto—  
A stream runs through it



みんなの心が形になる！



平成14年3月

松本地区まちづくり協議会／神戸市



松本地区は神戸市兵庫区のほぼ中央部にある住宅地です。1995（平成7）年1月17日未明に阪神・淡路地域を襲った「兵庫県南部地震」の直後に発生した火災により、地区の約80%が焼失してしまいました。

地区住民は自力復興の道を探っていましたが、神戸市からは土地区画整理事業が適切な手法であると提示されました。

この事業が、たんに住まいの再建だけでなく、道路、公園等の都市基盤を整備することにより、災害に強いまちづくりをすることができることに着目し、活用していくことになりました。

松本地区では、施行区域と都市計画道路松本線（幅員17m）の2つが第1段階として都市計画決定されました。そして、第2段階の都市計画とまちづくりの詳細については、住民と神戸市が話し合いながら計画を検討し、内容を決めていく方法が採られました。このような、2段階都市計画方式は、住民と行政の協働のまちづくりを進めていくうえで、有意義な手法でありました。



震災前 平成6年5月 Before the earthquake may 1994



震災後 平成7年5月 After the earthquake may 1995



# まちづくり協議会の活動

復興のためのまちづくりをすすめていくためには、地区住民と神戸市が協働して官民一体となって取り組んでいく必要があります。このための住民の組織として、1995（平成7）年5月7日に「松本地区まちづくり協議会」が発足しました。

神戸市におけるまちづくり協議会方式の特徴の一つは、協議会が地元の意見をとりまとめ「まちづくり提案」を神戸市に行い、市は提案を尊重した具体的なまちづくり計画を策定し実施するところにあります。

まちづくり協議会の結成後、まちづくり提案の作成に向けての検討が始まりました。役員会や街区別の小集会をいく度となく繰り返しながら意見の集約を図り、1995年12月には「松本地区まちづくり提案（その1）」がまとまりました。

「せせらぎ構想」はこの提案の中に盛り込まれたのですが、これは協議会活動中である住民の「火事のとくに水があったら…」のつぶやきから発想され発展したものです。まちに彩りや潤いを与えるとともに、非常時は、初期消火の水としても、また生活用水として使えるように考えられたものです。

## Community Development Councils

Under the Earthquake Restoration Land Readjustment Project, citizens, businesses, and the administration are working together for collaborative urban development in accordance with basic policy of resident participation.

"Community Development Councils" are organizations composed of residents, and land and home owners all of whom work together to build their own town.

Through the meetings of these groups a steady stream of "Community Development Proposal" reflecting residents' opinions have been put together and submitted to the City.



せせらぎのお披露目式（H.13.9.3）

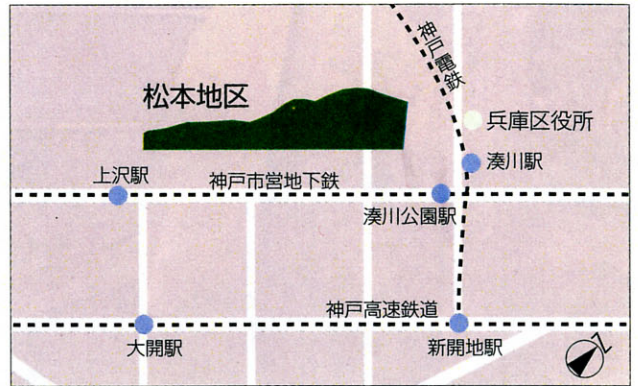
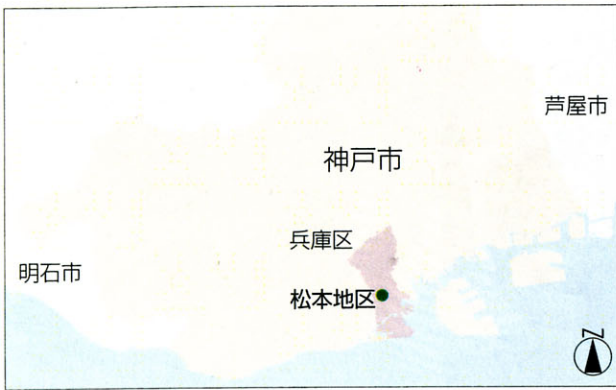


通り・せせらぎ部会での視察



松本地区まちづくり協議会風景





■復興まちづくりの経緯

- <平成7年>
  - 5月7日 / 「松本地区まちづくり協議会」設立
  - 12月18日 / まちづくり提案(その1)を神戸市に提出
- <平成8年>
  - 3月26日 / 事業計画決定
  - 7月15日 / まちづくり提案(その2)を神戸市に提出
  - 11月5日 / 地区計画決定
  - 11月30日 / 仮換地指定開始
- <平成12年>
  - 11月 / せせらぎ着工
- <平成13年>
  - 9月30日 / せせらぎお披露目式

■Chronology of Restorative Urbanplanning

- <1995>
  - May 7 "Matsumoto Area Community Development Council" established
  - Dec. 18 "Community Development Proposal No.1" presented to the City
- <1996>
  - Mar.26 Areas approved as Land readjustment project
  - Jul.15 "Community Development Proposal No.2" presented to the City
  - Nov.5 Detailed District Plan determined
  - Nov.30 Designation of the provisional Replot started
- <2000>
  - Nov. Construction of the stream started
- <2001>
  - Sep.30 Celemony to celebrate the completion of the stream

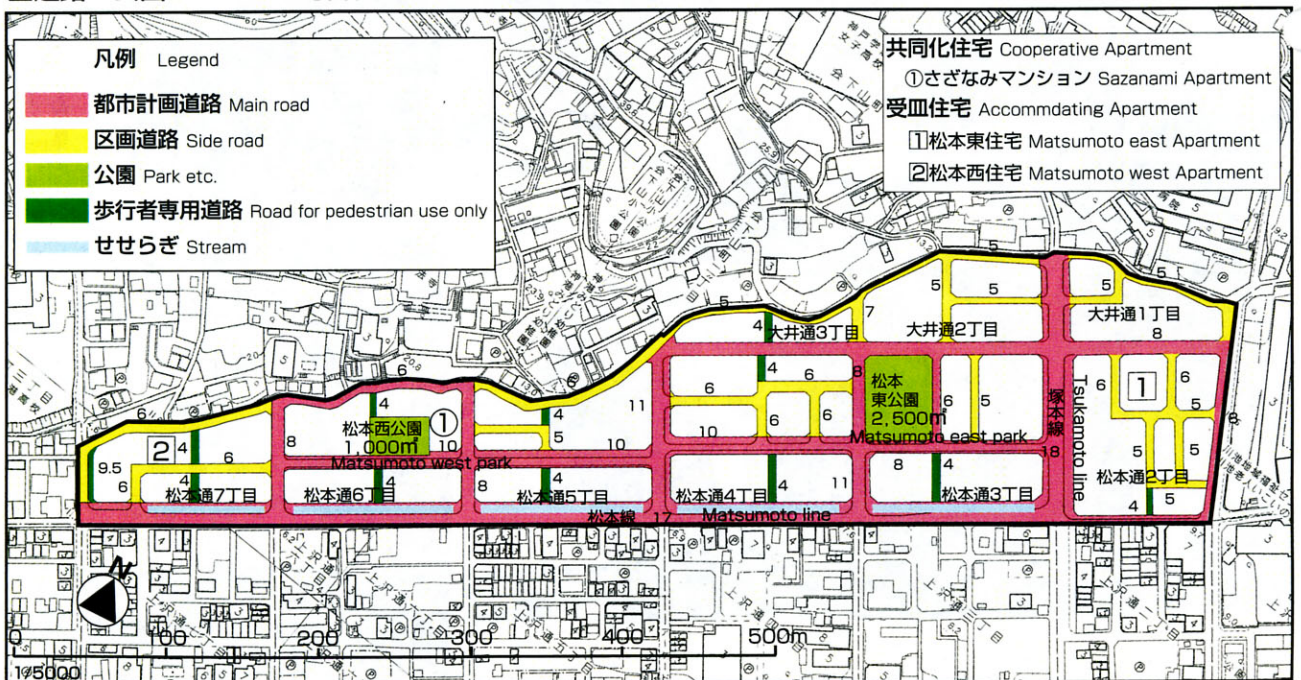
■地区と事業計画の概要

地区面積	8.9ha	
震災前 人口・世帯数	2,367人・1,206世帯	
状況 建物棟数	641棟	
被災状況	全壊(焼)数	429棟
	半壊(焼)数	88棟
被災率	81%	
事業計画決定	平成8年3月26日	
減歩率	9%	
総事業費	約249億円	

■Outline of the Project program

Area	8.9ha	
Before the earthquake	Population & no. of households	2,367 people, 1,206 households
	Total no. of houses	641
Damaged structures	Totally destroyed	429
	Partly destroyed	88
	Percentage destroyed	81%
Conclusion of project	March 26, 1996	
Area reduction rate	9%	
Total project cost	Approx. ¥24.9 billion	

■道路・公園・せせらぎ等計画図 Plan of roads, parks and the stream







Creating a stream

せせらぎを作ろう！

まちづくり提案に盛り込まれたせせらぎ構想は、土地区画整理事業がある程度形を見せはじめた1999年頃から、協議会内の「通り・せせらぎ部会」で本格的に検討がはじまりました。部会では、街路樹の樹種、歩道の舗装材料や色、せせらぎの形などを主な対象として「まちづくりのシンボル」をつくるための検討がすすめられました。

これまでのまちづくり活動の経験を活かして、住民と行政・専門家がそれぞれの立場や役割を認めながら一緒に考えていくことで、意見のすりあわせを図りました。



Where does the water come from?

この水はどこから？



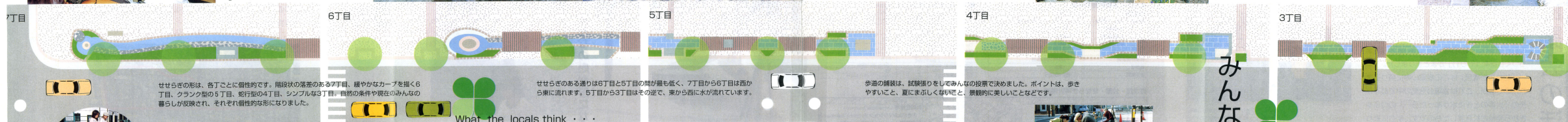
せせらぎを流れる水は、下水の高度処理水を活用したものです。地区の北方約3kmに位置する鈴鐘台下水処理場からの水は山を下り、途中で落差を利用して小規模水力発電のエネルギー源となったあと、松本地区まで戻ってきます。これまで、河川や海に放流していた処理水は、高度処理することによって、さらに利用することができるようになりました。



流れの途中に設けたいろいろな形の深みは、金魚やメダカの魚場として最適な場所です。花や樹木への水やりの時には水溜りにもなりません。大きな深みは、約40gの水がたまるので緊急時にも利用できます。



せせらぎは、たくさんの車に面しているため、駐車場の出入口が必要となります。そこでせせらぎに橋を架かせるのではなく、橋を架かしました。車も、まちがかな雰囲気を出せるようになります。耐久性のある雨waterのイボ付を使用しました。



せせらぎの形は、各丁ごとに個性的です。階段状の落差のある7丁目、緩やかなカーブを描く6丁目、クラック型の5丁目、蛇行型の4丁目、シンボルの4丁目：自然の条件や現在のみんなの暮らしが反映され、それぞれ個性的な形になりました。

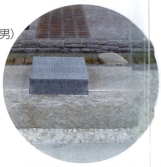
せせらぎのある通りは6丁目と5丁目の間が最も低く、7丁目から6丁目は西から東に流れます。5丁目から3丁目はその逆で、東から西に水が流れています。

歩道の舗装は、試験場をりしてみんなの投票で決めました。ポイントは、歩きやすいこと、夏にまぶしくならないこと、景観的に美しいことなどです。

What the locals think . . .

### 住民の声

- 「家の前にみんなの庭ができたみたいで、うれしいなあ。」(45才・女)
- 「あの機踏のまちからは、想像だにできないせせらぎができたよ。」(35才・男)
- 「そやけど、水路に藻が発生して掃除が大変やでえ。夏場が思いやられるよ。」(62才・男)
- 「みんなでお掃除するのに、デッキブラシを貰うたよ。」(56才・女)
- 「子どもも掃除を手伝ってくれて助かります。」(81才・女)
- 「金魚もいるし、学校の行帰りが楽しくなったね。」(11才・男)
- 「金魚をねらってサギが飛んで来たから、ネットを張って守ってるんや。」(78才・男)
- 「きれいな花が咲いていて楽しいや。」(9才・女)
- 「小さな花壇に花を植えたけど、時期がすんだら補充はどうするんやろ？」(55才・女)
- 「高齢者が多いから、いつまで世話ができるか心配やなあ。」(60才・男)
- 「みんなで掃除をしていると顔なじみも増えるし、お互いの健康についても話題になって、元気ののもとになってるよ。」(75才・男)



松本のベンチには、機能がいっぱい。裏の台つきベンチ、掃除用具置きベンチなどいろいろなベンチがあります。



みんなで育てよう

Nurturing the environment together

まちづくり提案での住民の夢が現実になったこのせせらぎや広い歩道や潤いのある空間は、地域のいろいろな行事にも使えるでしょう。完成してからは、地域住民が自主的に清掃を行うようにもなりましたが、ゴミやペットの糞などの放置も見られます。せせらぎは住民にとっては手がかかったりやっかひな一面もありますが、将来整備される東西の公園とあわせてまちの貴重な財産としてみんなで育てていく必要があります。このためにまちづくり協議会では、せせらぎの育成・管理の手法を確立するための調査を行っています。松本地区の住民は、せせらぎや公園のような潤いあふれるオープンスペースでの活動を通して、より豊かなコミュニティを築いていくとともに、せせらぎが、発展してゆく松本地区のまちの象徴となるよう、さらに守り育てていきます。



せせらぎの素材は、生野川原石、舗装などを用いました。



みんなの幸せを願って、せせらぎには、お守り動物がいます。このお守り動物が幸せになるようにとの願いを動物園にたくしました。